

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年6月16日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○松浦総務課長 本日は報告が2点ございます。

まず、1点目でございます。

本日の午前11時過ぎでございますけれども、もう既に皆様も御承知かと思っておりますけれども、東京電力から柏崎刈羽発電所6号機、7号機につきまして、設置変更許可の補正の申請書が出されたところでございます。この補正書の受理の際に、東京電力から、原子力規制委員会に当該補正書の提出について報告したいとの申し出があったところでございます。

この点に関して、現在、事務方で調整し、できるだけ早く東京電力のほうにこちらにおいでいただくように準備を進めているところでございます。具体的な日程が決まりましたら、また追ってお知らせしたいと思っております。

続きまして、お手元の広報日程に基づきまして、私の方から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目、2.の(2)番、6月19日月曜日、核燃料施設等の新規規制基準適合性に係る審査会合でございます。議題は3つございます。

まず、議題の1番目でございますけれども、JAEAのNSRRにつきまして、原子炉建屋の評価について、JAEAの方からお話を伺う予定でございます。

議題の2番目は、同じくJAEAのHTTRについて、火山影響評価のコメント回答をJAEAから伺う予定でございます。

議題の3番目は、同じくJAEAのJRR-3につきまして、火山影響評価と竜巻影響評価について、JAEAの方からコメント回答を伺う予定でございます。

続きまして、2ページ目、6月20日火曜日、(3)番の審査会合でございます。議題は2つございます。

まず、東京電力・柏崎刈羽発電所6号機、7号機につきまして、先ほど申しあげました補正申請書につきまして、お話を伺う予定でございます。

議題の2番目は、日本原電の東海第二発電所につきまして、シビアアクシデント対策の有効性評価、具体的には水素爆発対策ですけれども、この点について日本原電の方から

お話を伺う予定でございます。

続きまして、(4) 番目、原子炉安全専門審査会・核燃料安全専門審査会合同審査会でございます。

議題は4つございまして、まず、1番目ですけれども、先日、原子力規制委員会で両審査会の審査委員の任命がございましたので、その点について御報告をさせていただきます。

議題の2番目ですけれども、原子炉安全基本部会の設置についてですけれども、現在、原子炉安全専門審査会は火山部会を設置しているところでございますけれども、そのほかに原子炉安全基本部会を設置することについて議論していただく予定でございます。

議題の3番目は、IRRSにおいて明らかになった課題について、現在、原子力規制委員会、規制庁の方で対応しておりますけれども、その対応状況について御報告をいたします。

議題の4番目は、いつもやっております技術情報のスクリーニングについて報告するものでございます。

続きまして、6月22日木曜日、(3) 番目、降下火砕物の影響評価に関する検討チームでございます。第3回目でございますけれども、火山灰の大気中の濃度に関するプラントの影響評価について、事業者の取組状況について、事業者に来ていただきまして、お話を伺う予定でございます。

続きまして、3ページ目、6月23日金曜日、(8) 番、原子力事業者防災訓練報告会でございます。こちらは、事業者に来ていただきまして、事業者としての防災訓練の今後の検討状況について、また、議題1番目にありますように、平成28年度の訓練実績についてお話を伺う予定でございます。事業者は、いわゆる核燃料施設等ですので、日本原燃、JAEA等々の試験研究炉の事業者など、いわゆる電力事業者以外の事業者は全て含まれております。

続きまして、(9) 番、廃炉等に伴う放射性廃棄物の規制に関する検討チームでございます。現在、いわゆる中深度処分に関する規制基準の整備に向けて検討を進めているところでございますけれども、今回は審査ガイドにつきまして、事務方からその審査ガイドの案について報告した後、議論をする予定でございます。

続きまして、3ページ一番下、6月26日月曜日、環境放射線モニタリング技術検討チームの会合でございます。

まず、議題ですけれども、放射能測定法シリーズ、全34巻ございますけれども、今後の改訂について議論を進める予定でございます。

議題の2番目でございますけれども、平常時の環境放射線モニタリングについて、補足参考資料の策定につきまして議論を進める予定でございます。

最後、議題の3番目でございます。こちらIRRSから指摘があった事項でございますけれども、放射線個人線量計線量測定サービス提供機関、線量の測定について、民間事業者が線量測定を行っているところがございますけれども、こういった民間事業者の認定

プログラムの開発について、議論をする予定でございます。いわゆる品質保証の問題でございます。

私からは以上です。

<質疑応答>

○司会 いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。質問はよろしいですか。

ナガノさん。

○記者 新潟日報のナガノです。

1番目におっしゃっていましたが柏崎刈羽の関係ですけれども、今日、補正が提出されて、これまでの流れとは、先行の事例とはちょっと違うと思うのですけれども、改めて今後の規制委員会の取扱いといいますか、流れというのをちょっと教えていただけますでしょうか。

○松浦総務課長 今、事前に報告したとおり、本日、補正書を受け取りましたので、来週の火曜日、審査会合で、まずこの補正書について説明を伺うと。主に技術的な事項について説明を伺うこととなると思います。

あと、また、冒頭に報告したとおり、東京電力の方から廣瀬社長が規制委員会にいらっやって説明をしたいと伺っておりますので、21日の定例会に東京電力の廣瀬社長に来ていただいて説明していただくということで現在調整を進めております。

○記者 定例会に廣瀬社長が来て、直接また聞き取りというものもあると思うのですけれども、企業体質云々というところというのもその場面で聞くということになるのですか。それとも、また改めて今後開いて何回かにわたって意見を聴くことになるのでしょうか。

○松浦総務課長 今後、この東京電力の柏崎刈羽6号機、7号機の取扱いについて、どういうふうに進めていくかというのは、まさに今後の委員会で議論されると思いますし、事務方から何か予断を持って答えることはできないと思います。

ただ、現在、21日の定例会で調整して、場においては、廣瀬社長に前回来ていただいたときに、自分が責任を持ってということと体制をしっかりと整えるというお話をされていまして、その点について言及されると思いますし、そういった意味で、そのお話を聞いた後に委員会の各委員から当然コメントがあると思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。